

国旗に描かれた天体についての概説

竹内幹藏*

Overview of Celestial Bodies on National Flags

Mikimasa Takeuchi*

Abstract : Astronomical interpretations of the celestial objects depicted on national flags will be overviewed. There are several flags with stars in the constellation Crux. Among them, the flag of Brazil depicts the positions of the stars including Crux on the celestial sphere at a specific date and time. Many national flags depict the sun or the moon. In particular, designs combining the crescent with a star are often depicted as Islamic symbols, but it is difficult to identify what the star is.

キーワード：国旗、星座、太陽、月、旗章学

1. はじめに

三瓶自然館のプラネタリウムでは、国旗の中に描かれた天体を題材にして、2003年に生解説の投影、2006年にテーマ番組の制作、2019年に再び生解説の投影を行っている。その取り組みの中で、天体が描かれたさまざまな国旗の由来がわかり、それらについて天文的に解釈することができた。ここでは、国旗に描かれた天体について、おもに天文的な視点で紹介する。

なお、以下に挙げる国名は、初出に限り外務省の表記に従った。

2. 実在の星が描かれた国旗はあるか

図1は、アメリカ合衆国のアラスカ州旗であり、北极星と北斗七星が描かれている(DK, 2021, p.41)。それらは高緯度にあるアラスカの夜空で、実際によく見える星々である。では、国旗にもこのように実在する星が描かれたものがあるだろうか。

星を掲げた国旗は多数ある。多くの場合、描かれている星は実在のものではなく、特定の事柄を表すために使われている。例えば、アメリカの国旗(図2)に

描かれている50の星は、州の数を表しているし(例えばDK, 2021, p.39)、中華人民共和国の国旗(図3)の場合は、大きな星が共産党を、小さな四つの星が労働者、農民、知識階級、愛国的資本家を表している(例えば吹浦・新藤, 2019, p.118)。ツバルの国旗(図4)は一見夜空の星の配置のようではあるが、実際は国を構成する島々を表している(例えばシャスタインターナショナル, 2019, p.234)。

しかし、中には実在の星や星座を掲げた国旗もあり、特に、みなみじゅうじ座を掲げた国旗は、複数の国で採用されている。



図1 アラスカ州

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane 694-0003, Japan



図2 アメリカ



図3 中国

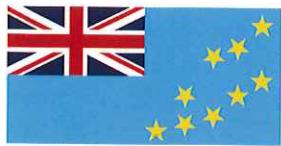


図4 ツバル

3. みなみじゅうじ座が描かれた国旗

みなみじゅうじ座を掲げた国旗には、オーストラリア連邦（図5）、ニュージーランド（図6）、サモア独立国（図7）、パプアニューギニア独立国（図8）、ミクロネシア連邦（図9）、ニウエ（図10）およびブラジル連邦共和国の各国旗がある（例えば桂田，2020，p.67）。ソロモン諸島の国旗（図11）の5星についても、みなみじゅうじ座であると一部の文献（例えば苅安，2020，p248）に見られる。

みなみじゅうじ座は、赤緯 -60° あたりにあるため、北半球の中緯度以北では見ることができず、上述した国は北半球低緯度から南半球にある。さらにブラジル以外は、すべてオセアニアの国々となっている。



図5 オーストラリア



図6 ニュージーランド



図7 サモア



図8 パプアニューギニア



図9 ミクロネシア連邦



図10 ニウエ



図11 ソロモン諸島

国旗の中での星の配置については、実際のみなみじゅうじ座の星の配置（図12）に従っているものと、従わずに意匠化されたものがある。星の数は、みなみじゅうじ座 α , β , γ , δ に ε を含めた5星を掲げたものと、 ε を除いた4星を掲げたものがあることが見て取れる。なお、オーストラリア国旗の左下に描かれている大きな星は、実在する星ではなく、連邦を表している（例えば苅安，2018，p.236）。

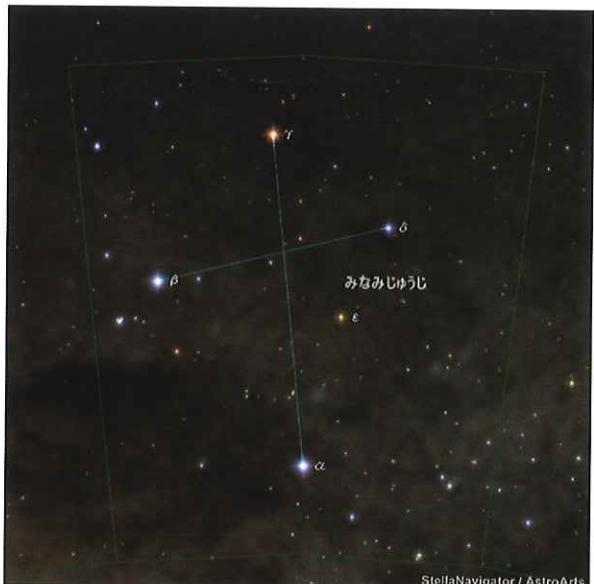


図12 みなみじゅうじ座

4. ブラジル連邦共和国の国旗について

ブラジルの国旗（図13）には、みなみじゅうじ座を中心にして、ほかの星座も描かれている。これは、ブラジルが革命により共和制になった1889年11月15日午前8時30分のリオデジャネイロでの空を表している（例えば苅安，2018，p.229）。リオデジャネイロの緯度は南緯23度である。27の星は国を構成する26の州と連邦直轄区を表し、しかも実際の星の並びに従っている（例えば桂田，2020b，p.95）。



図13 ブラジル

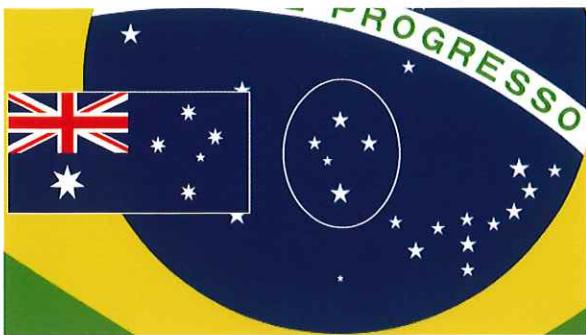


図14 オーストラリア国旗とブラジル国旗のみなみじゅうじ座

オーストラリア国旗とブラジル国旗のみなみじゅうじ座を見比べると、 ε の位置が異なっているのが分かる（図14）。ブラジル国旗のみなみじゅうじ座が反転しているのであるが、それは国旗の中の円形の部分が天球を表しており、外側から見た天球として描かれているからである（例えば吹浦・新藤, 2019, p.168）。

便宜上、この天球を反転させて見やすくした上で、シミュレーションソフトで再現した当時の空と比較してみる（図15、図16）。朝のため見えていないが、空に出ている星を表示させると、確かに⑥みなみじゅうじ座が正中している。みなみじゅうじ座は小さな星座だが、国旗には象徴的に大きく描かれているのが分かる。

ポルトガル語で「秩序と進歩」と書かれた白い帯が黄道を表しており（コンテックス情報研究所, 2017, p.53）、そのとき空に出ていた太陽、月、惑星は描かれていません。④おとめ座スピカは、実際は黄道よりやや南にあるが、国旗ではただ一つその北側に描かれた星となっている。その理由は、国旗の制作者のティシェラ・メンデスによれば、意匠の美しさを優先したということである（Prado, 1903, pp.64-79）。

⑦はちぶんぎ座 σ は5等級と暗い星であるが、天の南極に近い南極星であり、首都ブラジリアがある連邦直轄区を表している（例えば吹浦・新藤, 2019, p.168）。逆に、1等級のケンタウルス座 α と β は、みなみじゅうじ座のすぐ東にあるのにもかかわらず描かれていません。

そのほかの星・星座の対応は、①こいぬ座プロキオン、②おおいぬ座（大きな星がシリウス）、③カノープス、⑤うみへび座（大きな星がアルファルド）、⑧みなみのさんかく座、⑨さそり座（大きな星がアンタレス）である（桂田, 2020b, p.95）。

星と州の対応は、表1のとおりである。州の数が変われば、それに合わせて国旗の星の数も変えることになっており（例えばシャスタインナショナル, 2019, p.224），例えば1992年までは星の数が23の国旗が使われていた（例えば苅安, 2020, p.236）（図17）。



図15 ブラジル国旗の天球を反転させたもの



図16 1889年11月15日午前8時30分リオデジャネイロの空



図17 ブラジル(1968-1992)

表1 ブラジルの国旗における州・地域と星の対応

州・地域	星
アマゾナス州	プロキオン（こいぬ座α）
マットグロッソ州	シリウス（おおいぬ座α）
アマバー州	おおいぬ座β
ロンドニア州	おおいぬ座γ
ロライマ州	おおいぬ座δ
トカンティンス州	おおいぬ座ε
パラー州	スピカ（おとめ座α）
ピアウイ州	アンタレス（さそり座α）
マラニヨン州	さそり座β
セアラー州	さそり座ε
アラゴアス州	さそり座θ
セルジッペ州	さそり座ι
パライバ州	さそり座κ
リオグランデ・ド・ノルテ州	さそり座λ
ペルナンブーコ州	さそり座μ
マットグロッソ・ド・スル州	アルファルド（うみへび座α）
アクレ州	うみへび座γ
サンパウロ州	みなみじゅうじ座α
リオデジャネイロ州	みなみじゅうじ座β
バイア州	みなみじゅうじ座γ
ミナスジェライス州	みなみじゅうじ座δ
エスピリトサント州	みなみじゅうじ座ε
リオグランデ・ド・スル州	みなみのさんかく座α
サンタカタリーナ州	みなみのさんかく座β
パラナ州	みなみのさんかく座γ
ゴイアス州	カノープス（りゅうこつ座α）
ブラジリア連邦直轄区	南極星（はちぶんぎ座σ）

サンタカタリーナ連邦大学プラネタリウム
<https://planetario.ufsc.br/astronomia/> より

5. ブラジルの国旗に関連した国旗

ブラジルの国旗は天球儀が描かれているが、ブラジルの旧宗主国であるポルトガル共和国の国旗には天球儀が描かれている（図18）。ここでの天球儀は航海に必要な天体観測の道具であるアーミラリ天球儀であり、海洋国家ポルトガルの象徴となっている（桂田, 2020b, p.44）



図18 ポルトガル

ブラジル国旗同様、黄道が描かれた国旗としては、

エクアドル共和国のものがある（図19、図20）。黄道の上には太陽と黄道12宮のうち4宮の記号が配され、革命のあった4か月間を表している（例えば桂田, 2020b, p.89）。



図19 エクアドル



図20 エクアドル国旗中央の国章

6. 太陽が描かれた国旗

身近な天体であり、しばしば神聖視される太陽を掲げた国旗は多い。北マケドニア共和国（図21）、カザフスタン共和国（図22）、アンティグア・バーブーダ（図23）、アルゼンチン共和国（図24）、ウルグアイ東方共和国（図25）、エクアドル共和国（前述）、キリバス共和国（図26）、マーシャル諸島共和国（図27）、フィリピン共和国（図28）、ナミビア共和国（図29）、ニジェール共和国（図30）、マラウイ共和国（図31）、ルワンダ共和国（図32）といった国々の国旗に太陽が描かれている（例えばコンテックス情報研究所, 2017, pp.130-170）。キルギス共和国の国旗は、キルギス人の伝統的な移動式家屋であるボズウイの内部から見た天窓の構造を太陽と重ねた意匠となっている（例えば桂田, 2020a, p.30）（図33）。ネパールの国旗には、太陽だけでなく月も描かれている（例えば桂田,

2020a, p.45) (図34).



図21 北マケドニア



図22 カザフスタン



図23 アンティグア・バーブーダ



図24 アルゼンチン



図25 ウルグアイ



図26 キリバス



図27 マーシャル諸島



図28 フィリピン



図29 ナミビア



図30 ニジェール



図31 マラウイ



図32 ルワンダ



図33 キルギス

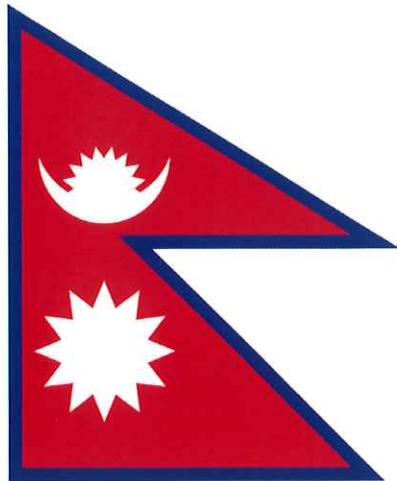


図34 ネパール

日本国（図35）とバングラデシュ人民共和国の国旗（図36）はよく似ている。これにはバングラデシュの国旗が日本の国旗を参考にして作られたという関係者の証言がある（例えばコンテックス情報研究所, 2017, p.38）。太陽が低い位置にあるときは、大気の影響を大きく受けて赤く色付くが、バングラデシュ国旗の太陽の赤は、そのような昇りゆく太陽の色を表している（例えばシャスタインター・ナショナル, 2019, p.53）。日本国旗は「日出する国」を意匠化したものという説があるので（例えば桂田, 2020a, p.44）、日章が赤いのも日の出を表しているからとも考えられるが、そのことは公式の文書には明記されていない。

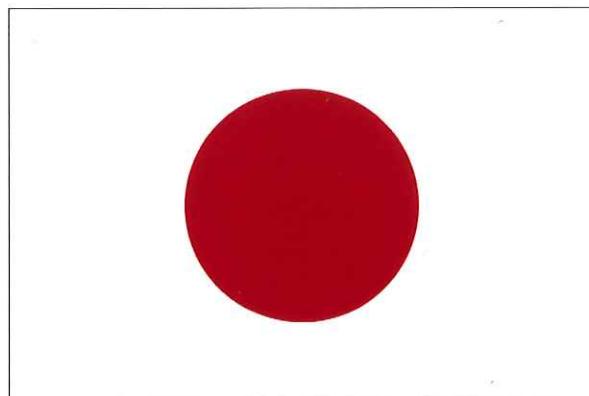


図35 日本



図36 バングラデシュ

7. 月が描かれた国旗

パラオ共和国の国旗も日本とバングラデシュの国旗に似ている。しかし、こちらは月を表したものである（例えばシャスタインナショナル, 2019, p.233）（図37）。同様に満月を掲げた国旗にはラオス人民民主共和国のものがある（例えばシャスタインナショナル, 2019, p.64）（図38）。月が描かれた国旗は多いが、満月は例外的で、ほとんどは細い月が描かれている。

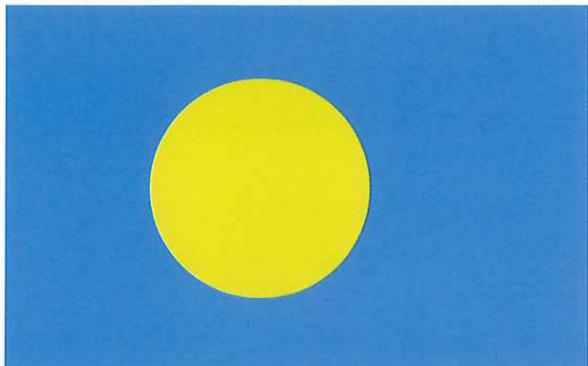


図37 パラオ

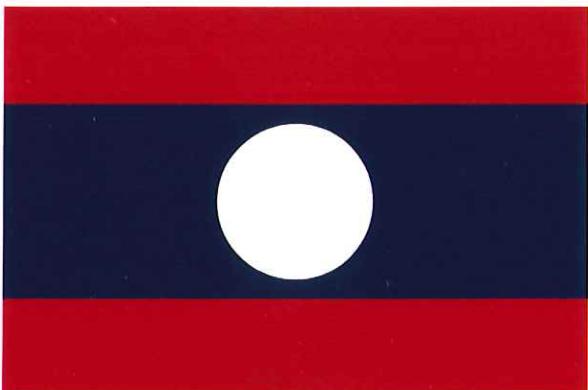


図38 ラオス

また、細い月、あるいは細い月と星の組み合わせは、イスラム教の象徴として国旗に描かれている場合が大部分である。アゼルバイジャン共和国（図39）、イラン・イスラム共和国（図40）、トルクメニスタン共和国（図41）、ウズベキスタン共和国（図42）、パキスタン・イスラム共和国（図43）、モルディブ共和国（図44）、マレーシア（図45）、モーリタニア・イスラム共和国（図46）、アルジェリア民主人民共和国（図47）、リビア（図48）、チュニジア共和国（図49）、コモロ連合（図50）といった国々の国旗が該当する（例えば、桂田, 2020a, pp.14, 21, 24, 42, 47, 54, 56；桂田, 2020c, pp.10, 26, 42, 57, 60）。そして、イスラム教の象徴としての月、または月と星の起源は、かつてイスラム世界の中心だったオスマン帝国の国旗の意匠にある（例えば桂田, 2020a, p.43）。「新月（crescent）」と呼ばれる細い月と星が描かれたオスマン帝国旗は、ほぼ変わらない意匠で現在のトルコ共和国の国旗（図

51）に引き継がれている（例えばDK, 2021, p.238）。



図39 アゼルバイジャン



図40 イラン



図41 トルクメニスタン



図42 ウズベキスタン



図43 パキスタン



図44 モルディブ



図45 マレーシア



図46 モーリタニア



図47 アルジェリア



図48 リビア



図49 チュニジア



図50 コモロ



図51 トルコ

8. トルコの国旗について

イスラム教の象徴となったオスマン帝国の国旗の意匠、すなわちトルコ国旗の意匠の由来については諸説あり、その一つ「オスマン帝国の皇帝メフメト2世が東ローマ帝国のコンスタンチノープルを陥落させると、三日月と星を見た」という伝説について、当時の星空をシミュレーションする試みがあった（西村、2003）。そのシミュレーションは三瓶自然館で2006年に制作したプラネタリウム番組でも取り上げたが、実際には次のように、陥落の日には細い月は出ていなかったことが分かっている。

コンスタンチノープルが陥落した日は1453年5月29日で、これは当時の暦法であるユリウス暦での日付である。アストロアーツ社の天文シミュレーションソフトウェア「ステラナビゲータ」では、現在使われているグレゴリオ暦が施行された1582年10月以前のシミュレーションについてはユリウス暦で計算されるため、簡単に、現在のイスタンブールで当日に見られた天体の位置や状態を調べることができる。それによれば、この日は下弦前のほぼ半月であった。

陥落の日ではなく、それに近い日であれば、5月5の未明には、月齢25.8の細い月と、そのすぐ西に木星が見えており、国旗の意匠に似た配置となっていた（図52）。有名な「オスマン艦隊の山越え」が4月22日であり、オスマン軍がコンスタンチノープルを完全に包囲していた時期であるため、メフメト2世がこれを見て勝利を確信したということは可能性としてはあり得るが、あくまで伝説であり、オスマン帝国にまつわる他の伝説も含め、トルコの国旗の由来と、実際に

あった天体の配置を結びつけることは難しい。

なお、細い月と星の意匠は、陥落以前の古くからコンスタンチノープルで使われており、その場合は、月はローマ神話の女神ディアナを象徴し、星は明けの明星、すなわち金星で、キリスト教の聖母マリアを象徴しているといわれている（例えば苅安、2020, p.47）。

9. 宇宙を表した国旗

個々の天体ではなく、宇宙全体を表した国旗もある。大韓民国（図53）と北朝鮮（図54）の国旗に配されている円は、陰陽思想で宇宙の根源という概念を指す太極を表している（例えばコンテックス情報研究所、2017, pp.66-68, 137）。



図53 韓国



図54 北朝鮮

10. おわりに

ここまで、世界の国々の国旗の中から天体が描かれたものについて、網羅的に概略を述べた。今後個々の国旗について詳しく知るために、それぞれの国の公文書に当たる必要もあるが、必ずしもそれらに国旗の由来が記述されているとは限らないので、様々な資料



図52 1453年5月5日午前3時30分のコンスタンチノープルの空

を探り、天文学的な視点に旗章学的あるいは歴史学的な視点を加えて調査する必要がある。そのようにして、その国や民族の天体に関する文化や思いを理解していくたい。

引用文献

DK (2021) Complete Flags of the World, New Edition. Dorling Kindersley Limited, London/New York.

吹浦忠正・新藤昌子 (2019) オリンピックでよく見るよく聞く国旗と国歌. 三修社, 東京.

苅安望 (2018) 歴史がわかる！世界の国旗. 山川出版社, 東京.
苅安望 (2020) 改訂2版 世界の国旗図鑑 歴史とともに進化する国旗. 偕成社, 東京.

桂田祐介監修 (2020a) 国旗の図鑑, 1 アジアとオセアニアの国旗.

あかね書房, 東京.

桂田祐介監修 (2020b) 国旗の図鑑, 2 ヨーロッパと南北アメリカの国旗. あかね書房, 東京.

桂田祐介監修 (2020c) 国旗の図鑑, 3 アフリカの国旗. あかね書房, 東京.

コンテックス情報研究所編著・阿部泉監修 (2017) 話したくなる世界の国旗～世界の国旗を知っていますか～. 清水書院, 東京.

西村昌能 (2003) 星と☆形—The Symbol of Stars—第4章. 天文教育 15 (2), pp.51-63.

Prado, Eduardo (1903) A Bandeira Nacional. Escola Typographica Salesiana, São Paulo.

シャスタイルインターナショナル編・国際政治文化研究会監修 (2019) 新版 世界の国旗～国旗で知る世界の国々～. シャスタイルインターナショナル, 東京.